

2019年4月24日

Apr. 24th, 2019

大学院学生各位

To All Graduate Students

2019年度

基盤医学特論 開講通知

Information on Special Lecture Tokuron FY2016

題目： 病は気から？～サイトカインから見えること

Title： EVERYBODY MINDS MIND AND BODY: DO CYTOKINES ACT BEHIND THE SCENES?

講師： 関山 敦生先生（大阪大学大学院薬学研究科 先制心身医薬学寄附講座 教授）

Teaching Staff: Atsuo Sekiyama, M. D., Ph. D.

日時： 2019年5月14日（火）18:00～19:30（質疑応答含む）

Time and Date： Tue, May 14th, 2019, 18:00～19:30

場所： 精神科 医局（医系研究棟1号館 10階）

Room： Department of Psychiatry (Medical Science Research Building 1 10F)

使用言語： 日本語 **Language：** Japanese

（概要）

身体疾患のなかで、Ⅱ型糖尿病、脂質異常症（孤発例）、高血圧、動脈硬化、高尿酸血症などは、発症にも増悪にも生活習慣が強く関与することが広く知られている。一方で、これらの疾患の発症および増悪因子に関する臨床研究により、精神的ストレスやうつ病罹患経験がリスクファクターであることが示されてきた。

我々は、うつ病や統合失調症に対し、生体ホメオスタシスや炎症制御の破綻という観点から病態研究を進め、また血液など罹患由来の検体に対する解析も行ってきた。その成果の一部として、面談以外の有力な判定評価法がなかったうつ病、統合失調症、精神的ストレスを血中サイトカイン濃度で判定評価できることを示した。

サイトカインは炎症や生体ホメオスタシスの主要な制御分子であり、前記の身体疾患群の発症や増悪に深く関与することが多数の研究で示されている。即ち、「見えないリスク・疾患」だった精神的ストレスやうつ病を「見える化」できる血液中の因子（サイトカイン）は

「見える疾患」であった前記疾患群の病態に深くかかわる分子だったのである。

これらの事実から、精神的ストレスや抑うつ気分は、情動体験によって直接脳に影響を及ぼすのみならず、サイトカインを介して身体に影響を及ぼし、前記の疾患群を惹起しやすい状態に導いている可能性もまた推定される。

本講演では、サイトカイン・ケモカインを疾患特異的バイオマーカーとして活用するに至った過程と現在の研究のフロントラインとをご紹介し、疾患の超早期診断の可能性、生活習慣のみならず精神衛生により身体疾患を回避制御できる可能性およびそのために必要と考えられる研究開発について論じたいと思います。

関係講座・部門等の連絡担当者 精神医学分野 尾崎紀夫（内線 2282）

Contact Norio Ozaki, Dep. Psychiatry, Ext2282

医学部学務課大学院係

Student Affairs Division, Graduate School of Medicine